

新島 襄の言葉

山本真司（国際中学校・高等学校宗教主任）

広津友信は一八八五年十二月十八日午前十時から行われた同志社礼拝堂定礎式で語られた校長の言葉をどのような思いで記したのだろうか。そして、国が重要文化財に指定した建物は、今、わたしたち同志社につながる者に何を示そうとしているのだろうか。

同志社が同志社でなければならぬ理由はここに示されているのだと思う。多くの私学がその独自性を模索せざるを得ないなかにあつて、わたしたちにはすでに礼拝堂を中心に据えた指針が与えられている。しかし、この道標は、新島襄が看破していたように、容易には理解されず、受け入れられないことなのかもしれない。「基督教ヲ賤ムルハ学生ノ常ニシテ我同志社ニモ亦タ此教ヲ嫌フ者ナカリシニモアラス」

だからこそ、混迷の時代にあつて、変わることにない確固とした礎石が必要とされ、それがわたしたちを見守っている。「然ラハ即チ礼拝堂ナルモノハ決シテ学校ニ廃ス可ラサル者ト思フナリ」

この日、創立者は次の様に結んでいる。「諸君ヨ若シ神ノ意ヲ為バ決シテ破ル、事ナシ、是二省ル所アレ今日ハ是最モ好キ時節也、若シ此時二際シ事ヲナシテ世ヲ去ラバ神ノ前ニ称セラル、ナラン」

探堂、我同志社ノ基礎トナリ又々精神トナル者ナレバ
ナリ者ナレバ

「此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ又々精神トナル者ナレバナリ」—このチャペルはわが同志社の基礎となり精神となるものだからである—

同志社創立十周年記念演説 同志社チャペル定礎式式辭

（広津友信による筆記）